

こんなオトナになってみたい

| | | | |
|------|--|--|---|
| 所属 | 愛知県瀬戸市立水野中学校 | 実践者 | 加藤 篤 (L) |
| 対象 | 中学3年生 (100名) | 時間数 | 4時間 |
| 場所 | 3年1組～3組 教室 | 実践教科 | 社会科+総合的な学習の時間 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスと出会うことを契機に、外国の文化や習慣を肯定的に捉えられるようにしていく ・ラオス (外国) に貢献できることを考える中で自分を見つめ、夢や可能性を膨らませていく | | |
| 実践内容 | 回 | プログラム | 備考 |
| | 第1時 第2時 | ラオスに出会ってみよう! 1. アイスブレイキング 2. 写真クイズ「ラオスってどんな国?」 写真とその裏に書いてある解説を元に、ラオスに関するクイズを作成し、ラオスに対するイメージを持たせる。 3. ロールプレイ「牛から垣間見えるもの」 牛の写真から状況を想像し、班ごとに話し合う。その後、学校の写真から日本の学校との共通点や相違点について表にまとめ、発表する。 | PPT 写真資料 クイズ 牛の写真 ロールプレイ 対比表 |
| | 第3時 | ラオスが抱える課題 1. アイスブレイキング 2. フォトランゲージ 「働くラオスの人々」 絵を描く少年、紙漉をする少女、機織りをする女性、クッキーを作る障害者、看護師らの写真を配り、裏に書いてある説明を元に彼らの生活状況や背景について話し合う。 3. 統計資料から見えるラオス 統計資料を読みとり、そこから見えるラオスの課題を班で話し合う。 4. 課題を解決するためにどのようなアプローチをとるか班ごとに考え、発表する。 | PPT 働く人々の写真 フォトランゲージ 統計資料 対比表 プレーンストーミング |
| | 第4時 | 外国で仕事、してみませんか? 1. アイスブレイキング 2. こんな事でもラオスに貢献できますよ～ 実際ラオスに派遣されているJOCV、専門家の人たちの紹介を写真や映像で行う。 3. 外国でこんなこととして働きたーい 自分を見つめ、今自分ができただけでなく、将来に自分がどんな力を身につけて外国で働いてみたいかを想像し、発表する。 4. まとめ ・授業の感想を書く | PPT 写真、映像 ワークシート |
| 成果 | <p>生徒にとっては未知の国であるラオスを使って授業をしたが、生徒たちは積極的に取り組み、些細なことでも面白いと感じ、好奇心をもち続けてくれた。どんなことでもやりたいと思えば、それが国際貢献に繋がっていくことも分かってくれた。</p> | | |
| 課題 | <p>ロールプレイでは楽しそうに演じているが、いざ自分で考えるとなると妙にかしこまってしまう、自分の考えを上手く表現できない生徒が多かった。また、ラオスが抱える課題については統計資料以外の資料も用意し、生徒たちに多くの情報を与えておかないと学びが深まらないと感じた。</p> | | |
| 備考 | <p>ファシリテーターをやってみて、自分自身が楽しくできた。いつもの授業ではなかなか見られない生徒たちの様々な考えを知り、表情の変化を捉えることができたのは得るものが多かった。2月以降に、今回の授業の続きを計画している。</p> | | |

[授業実践の詳細]

1-2 時限目「ラオスに出会ってみよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング「国名ビンゴ」…3×3マスの紙に自分の知っている国名を書いていく。書いたら全員立ち上がり、教師が国名の札を読み上げ、3列ビンゴになったら座る。ヨーロッパ編、アジア編と行い、3列ビンゴで順番を決め、順番が決まったところで、4人グループをつかって席に座る。
- ② 写真クイズ「ラオスってどんな国？」… グループに写真を配る。写真の裏には写真の解説が書いてあり、それをもとにヒントを作る。写真をみんなに見せながらヒントを出し、残りの生徒から答えを出してもらう<教材1>。
- ③ フォトランゲージ「牛から垣間見えるもの」… グループに牛の写真を1枚見せる。そこから想像したことを牛になって個々が説明する、面白かった説明をもとにイメージを膨らませ、写真の説明をグループで1つにまとめ、発表する<教材2>。
- ④ 日本とラオスの学校について比較してみよう。
- ⑤ まとめ…ラオスについて分かったこと、感じたことをワークシートに記入する。ラオスの学校に関する資料を読み、日本の学校と比較してみる。模造紙に「日本の学校の方がよいところ」、「ラオスの学校の方がよいところ」、「日本とラオスの学校で違うところ」、「日本とラオスの学校の同じところ」と4つに分けてグループで書き込んでいく<教材3>。書き込みが終わったら、グループごとに発表する。

この時限のねらい

- 写真や資料を通してラオスに興味をもつ。
- 日本とラオスを比較し、違いや同一性を見つけ、それぞれの良さを認める。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ クイズ活動を通して、ラオスの写真に興味を持ち、ラオスとはどんな国なのかについて想像したり、推測することができた。
- ◇ 牛の写真や配付資料からラオスの学校について高い関心を示し、学校制度やカリキュラム等を知ること、東南アジアの国＝「自分とは関係のない国、貧しい国」という考えから、ラオス＝「面白そうな国、日本にはない良さがある国」と存在感の薄い国だった。しかし、パワーポイントやクイズを通して日本とラオスの違いに気付く、「ラオスは日本とは違う面白さがある国」という考え方に変わってきた。生徒の具体的な感想例は以下のとおり。

- ・ラオスは貧しい国だと思っていたけど、日本にはない面白そうなものがたくさんあった。
- ・写真を見ると、昔の日本みたいって思ったけど、のどかで平和そう。けんかもなさそう。
- ・牛が学校にいることにビックリしたけど、ラオスの事をちょっと知って、ラオスだったらありかなと思えた。

3 使用した教材 <教材1> 写真クイズ（ラオスってどんな国？）



お寺



ペタンクをする人



焼きバナナ

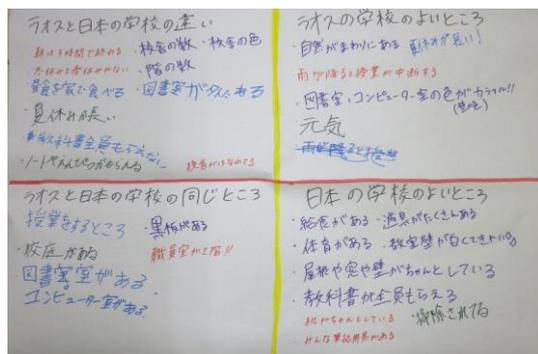


ティップカオ

<教材2> 牛の写真と発表する生徒



<教材3> 対比表と対比表を製作する様子



3 時限目「ラオスが抱える課題とその解決策を探る」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング…「口」に二画足して別の漢字をつくろう。
- ② ラオスの働く人々…絵を描く少年、紙漉をする少女、クッキーを作る障害者、病院で働く看護師等の写真と裏に書いてある説明を見て、ロールプレイを行う<教材4>。ロールプレイのあと、これらの人物についての感想をグループ内で述べる。
- ③ 統計資料から見えるラオス…ラオスと日本について比較してまとめた統計資料を読み取り、そこから感じたラオスの良さや、課題についてグループ内で話し合い、表にまとめる<教材5>、<教材6>。
- ④ 課題を解決するために…グループで出された課題から1～3つを選び、その解決策をブレインストーミングを使って話し合う。話し合ったことを表の中に書き込んでいく。カクテルパーティー方式で他のグループの成果物を見合い、よいものは自分のグループに取り入れていく。

この時限のねらい

- ラオスで働く人々の様子や背景について知る。
- 統計資料からラオスの課題について探し、その解決策を探る中で、ラオスの課題は日本の課題でもあることに気づかせる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アイスブレイキングではグループで協力して課題に取り組む姿勢が見られた。また、試行錯誤することであつとなるような閃きが生まれる瞬間を感じていた。
- ◇ ロールプレイでは説明を読んだあとの話し合いで、写真の人物の生い立ちや背景を話し合う生徒が多かった。特に絵を描く少年と紙漉をする少女への反応が大きく、「毎日絵を描いているのか?」「紙漉をしている子はお手伝いなのか、それともお給料をもらっているのか?」といった疑問が話し合われていた。
- ◇ 統計資料を読み取り、ラオスの問題点の解決策を探る場面では、アイスブレイキングの経験を生かし、「インターネットの使用率が少ないから、ネットいじめもなさそうだし、平和な国をアピールしたらいい」と

か、「車の台数が少ないなら、逆にそれを売りにして『空気のきれいな町』をアピールするようにしたらどうか。」といった意見も出ていた。

- ◇ 問題点を挙げ、解決策を探る中で生徒の中から「これって日本でも同じ事が言えるよね。」といった発言が出始め、ラオスの問題点を解決しようとする事は、日本の問題点を解決することにも繋がることに気づく生徒が出てきた。

3 使用した教材 <教材4>ラオスの働く人々



- ① 人口 664 万人(愛知県の人口 700 万人)
- ② 国内総生産(GDP)91 億 7000 万ドル(日本 5 兆 9600 万ドル)
- ③ GDP 成長率 7.8%(日本 2%)
- ④ 人口 1000 人あたりの車の保有台数 2 台(日本 452.6 台)
- ⑤ 人口 1000 人あたりの出生率 27.8 人(日本 8.3 人)
- ⑥ 新生児死亡率(出生 1000 人あたり)27.2 人(日本 1.1 人)
- ⑦ 死亡率、5 歳未満(出生 1000 人あたり)72 人(日本 3 人)
- ⑧ 出生時平均余命 67.2 歳(日本 82.6 歳)
- ⑨ インターネット利用率 10.7%(日本 71.9%)
- ⑩ 教師の比率(教師/生徒数):初等教育 26.8%(日本 17.8%)
- ⑪ 収入が 1 日 1.25 ドル未満の人口の割合 33.9%(日本 なし)
- ⑫ 100 人あたりの携帯電話契約 87.2 台(日本 105 台)
- ⑬ 15 歳以上の識字率 72.7%(日本 100%)
- ⑭ 人口 10 万人あたりの殺人 4.6 件(日本 0.2 件)
- ⑮ 一人あたりの CO2 排出量 0.29t(日本 9.19t)
- ⑯ 国土に占める森林の面積 67.9%(日本 68.6%)
- ⑰ 一人あたりの医療費 37 ドル(日本 3,958 ドル)

Q1:これらの数字を見て、ラオスの良さや問題点を取り上げよう。

Q2:問題点を1~3つ選び、その解決策をグループで話し合おう。

<教材6> 対比表と問題点や解決策を模索する生徒たち

| | |
|------------|-------------|
| ラオスのよいところ | ラオスの問題点(課題) |
| 問題点を解決するには | |



<教材5>統計資料から見るラオス

4 時限目「外国で仕事、してみませんか？」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング
- ② こんなことでも、ラオスに貢献できますよー…JICA を通じてラオスに派遣されている JOCV (青年海外協力隊) や専門家の方々、JFA からラオス代表に派遣されている木村浩吉監督、本間圭監督の写真や映像を見て、様々な分野で活躍・貢献している人がいることを知る<教材7>。

この時限のねらい

- ラオスで活躍・貢献する日本人が様々な分野にいることを知り、国際貢献に対する意識を変える。
- 今の自分ができること、将来の自分ができることを考える中で、自分のことをより深く理解する。

- ③ 外国でこんなことして働きたーい…現在の自分を見つめ、今自分が貢献できることを考える。・将来自分が貢献するなら、どんなこと(知識・技能)を身につけたらよいのかを考える。考えたことをワークシートにまとめ、グループで話し合う<教材8>。
- ④ まとめをする…授業を振り返って感想を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ JICA の JOCV や専門家の写真や映像から、様々な分野で活躍する日本人を知ることができた。年齢・性別はバラバラだが、ラオスのために頑張っている様子を見て感心していた。
- ◇ 当初、「国際貢献」という言葉に「自分とは関係ないこと、自分とは縁遠い話」と考えていた生徒たちが、バレーボールの指導者や、児童館の指導者を映像から見つけた時、「こんなことでもラオスに貢献できるんだ。」と感じ、「これぐらいなら自分にでもできるかも。」と思い始めた。
- ◇ 自分の現状持っている力を分析し、将来なりたいこと・やってみたいこと＝これから身につけたい力(資格や知識や技能)を考えながら、「今からでも貢献できること」、「これから身につけた力で貢献できること」を書くうちに、改めて自分の持っている力を認識する生徒が現れた。

<生徒の感想>

- ・国際貢献なんて僕には無理だと思っていたけど、そんなに難しいことではないんだと思った。
- ・私は将来英語を使った仕事に付いてみたいと思っていましたが、英語を使って日本語の先生になってみるのも面白いと思いました。
- ・私もバレーボール部だったので、高校でもバレーを続けて、外国でバレーを知らない子どもたちにバレーの楽しさを教えるのも楽しそうだった。

3 使用した教材 <教材7>ラオスで活躍する日本人



<教材 8> ワークシート

外国で仕事, してみませんか?

1. ラオスで活躍する日本人

| 名前 | どんなこと(分野)で働いているのか |
|----|-------------------|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |

2. 自分にはどんな力がある? どんな力をつけたい?

今, 自分が持っている能力, 自信のあること

-
-
-
-

将来, やってみたいこと (目標・夢), 取りたい資格

-
-
-
-

3. 自分にはどんな貢献ができるのだろうか?

| | |
|--------------|--------------------|
| 今 (から) できること | 将来 (未来) になったらできること |
|--------------|--------------------|

4. 授業を振り返って(感想)

■ 全体を通して



<写真1>対比表を製作する生徒



<写真2>グループ内で発表をする生徒